

奥多摩消防署からのお知らせ

【STOP!住宅火災】

空気が乾燥し、火災が発生しやすい時期です。ご家庭の防火対策について、もう一度確認し、火の取り扱いや消し忘れに十分注意して、火災予防に努めましょう。

ご家庭の住宅用火災警報器は正常に作動しますか？

「いざ」という時にきちんと作動するように、日頃から作動確認を行いましょう。

また、万が一、火災が発生したときのためにご自宅に消火器を備えましょう。火災が発生した際に消火器を使用した場合、約7割が被害軽減につながっています。

*東京消防庁管内の令和8年1月中の住宅火災件数は242件で、過去10年間で最も住宅火災が多かった昨年の1月(209件)と比較して33件も増加しています。

*昨年、東京消防庁管内での住宅火災による死者(75人)のうち、8割以上(60人)が65歳以上でした。

*住宅火災の原因は、「たばこ」、「ストーブ」が上位を占めています。たばこによる火災では、たばこの火が落下し布団やごみくずから出火するケースが多く、ストーブの火災では可燃物が接触し出火しているケースが多くなっています。たばこやストーブの消し忘れに注意し、燃えやすい物を近くに置かないようにしましょう。



住宅防火10の心得

1 調理中は、**こんろ**から離れないようにしましょう。



6 コンセントの掃除を心掛けましょう。



2 **寝たばこ**は、絶対にやめましょう。



7 **住宅用火災警報器**を全ての居室・台所・階段に設置し、定期的な作動確認をしましょう。



3 **ストーブ**の周りに、物を置かないようにしましょう。



8 寝具類やエプロン・カーテンなどは、**防災品**にしましょう。



4 家の周りを整理整頓しましょう。



9 万が一に備え、消火器を設置し使い方を覚えましょう。



5 ライターやマッチを子供の手の届く場所に置かないようにしましょう。



10 ご近所同士で声をかけあい火の用心に心掛けましょう。

